



談叢

新會員を迎ふ
學友會員諸君に告ぐ
新會員を迎へて卒業に際しての所感一そうだつた

本校記事

日誌○職員消息○入學試験問題○入學生氏名

學友會記事

學友會各部史(庭球部史)端艇競争

同窓會記事

會告○常議員選舉○定期總會○會員消息○會計報告○各地通信

諸會

九州支部大會記事



談叢

新會員を迎ふ

昨、一百の卒業生を送りて、今、百五十の新會員を迎ふ、曩きに寂莫の情に堪へざりし吾人は、茲に欣躍の念目ら禁する能はざるものあり、失ふの悲は、無條件にては慰せらるべくもあらず、得るの喜は、拘束の存するによりて減ず、而して曩きに失ひたるは絶對に失ひたるにあらず、今の得たるは何等の制限なし、吾人此故に喜び、此爲に賀す、豈夫れ絶對數増加の爲ならんや。

而も、其得る處は、これ東海の麒麟兒にあずんば、西國の俊髦なり、而れども吾人は徒らに羽翼徒黨以て慶賀するものにあらず、願るに本校開けて茲に八歳、此間已に藉を本校に置きしもの實に一千、今や更に新學生を加ふ、校運日々に隆盛にして、本會益々多事ならんとす、吾人は此故に慶し、此爲に欣ぶ。
新會員諸君、諸君が過去の苦心は空しからざりき、刻苦勉勵は果して其効果を齎

しぬ、諸君が満足と喜悅とは無限なるべく、勝利の快感は胸中他に何物の介在をも許さざるべし、而れども記せよ、そこに四百の會員ありて熱誠諸君を歓迎しつゝあることを、而して迎ふるもの、喜は決して迎へらるゝもの、夫れに劣らざるものあることを。

時恰も猛春、耶山の連峯綠愈々深く、茅海波更に靜なり、出でゝは此山水の麗氣に浴し、入りては懇篤なる教授あり、同窓の親交又日々に濃なり、希くば諸君、相携へて、切磋琢磨以て大成を後日に期せんことを、之れ吾人が諸君を迎ふるに當りて、切に希望せざるを得ざる所なり

(逸)

學友會員諸君に

告ぐ

本校學友會の設立以來茲に八年、其基礎已に固く其事業日に旺盛、各部亦其面目を刷新し其施設を完備して會員諸君を満足せしむるに足るものあらむ、此時に當り吾人は獨編纂部の現狀を想ひ將來を察するに聊か憂慮に堪へざるものあり。

思ふに編纂部は一方に於て學友會各部の副機關たると同時に他方に於ては本會同窓會及び本校の一重要機關として存するものなり、從て彼れの隆興に伴ひ此れ亦發展せしめざる可からざるは誠に明かなる事實なり、然るに本部唯一の事業として刊行する學友會報が會員諸君の意に充たざる所あるは吾人亦之を知らざるに非ず、知りて之を充たす能はざるは、そも何の故ぞ、一は役員其人を得ざると、二は資金の缺乏即是れ。

吾人固より不敏にして菲才其任に不適なるを知るも、一旦選ばれて委員となりし者、唯其責の盡す可きを盡くして止まんのみ、其第二因たる資金の缺乏に至つては學友會の事情之を然らしむるに出でたるものにして會の事業多端なる今日吾人は之れに甘んぜざるべからざらん、而れども今本部本年度の豫算金額を見るに實に僅少にして、前年度の夫れに比して二十三パーセントの減少を來たせり、事此に至つてや吾人不明なる此少額の資金を以てしては到底改善の策を見出す能はず、況んや他方にも會員の増加に伴ふ刊行部數増加の止むなきあり、若し強いて月刊制度を續行せんとせば即每號頁數

僅々二十頁に足らざるものとなすの外なけん。

限りある紙數は思想横溢なる諸君に對して到底満足を與へ得ざるべけんも、如上の事情は今更吾人の如何とも爲し能はざる所、希庶は諸君夫れ之を諒とせよ。

(編纂部委員記す)

新入學生を迎へて

天涯生

風雪を犯して春に逢ふもの獨り庭園の花木のみならんや、今春茲に芳花繚爛の内に鋭を破り堅を摧き以て入學の光榮を負へる百有餘の秀逸の士を迎ふ、亦快ならずや。

夫れ巍峨として白雲の表に兀立し千秋不摩の高志を持し吾人をして秋風懷裡に充ち來るが如き感あらしむるは是れ彼の摩耶の靈嶽に非らずや、激瀾蕩々として白帆靜かに風を孕み萬古不易の雅懷を擁し吾人をして自ら襟胸活然たらしむるは是れ彼の茅海の清波に非らずや、仰いで其秀を賞すべく俯して其麗を掬すべし、語に曰く「時勢や人物を生み山川の秀麗亦偉人を作る」と然り、悲風颯然として殺氣

を送り硝煙茫茫として日月も爲に暗澹たりし滿韓の地も今や已に商戰の巷と化し經濟的開發商權の擴張を望むの切なる恰も大旱の雲霓を欲するに似たり、夫れ現下の大勢や已に斯の如く吾校の地の利や夫れ斯の如きか、然らば國家の盛衰隆替を負ひ百年の大計を立てんとする吾人青年、而も將來事を實業に托し此界に雄飛活躍せんとする吾校五百の健兒の態度や如何、何ぞ徒に蜉蝣一瞬の生を樂み權花一朝の新を希ひ默して牛蟲たる可けんや潜龍時を得て青雲の空に飛騰す豈敢て區々たる小利に齷齪せん、人生畢竟北邙一片茶毘の煙のみ何ぞ沈香も焚かず屍も放らずして可ならんや、將に「天空任鳥飛、海濶從魚躍、振衣千仞壑、濯足萬里流」てふ氣概を養ひ、發しては萬朶の櫻となり凝りては百鍊の鐵となる敷島の心を磨き日夜匪勉修養に怠りなく士魂の銃に商才の丸填め勇往邁進以て事の大成を期せん哉。

嗚呼摩耶の清姿は巍峨として笑を含み、茅海の靜姿は沓渺として美を漂ひ、以て吾校健兒の勇飛の秋を俟てり、起てや諸子奮へや吾友。

卒業に際しての所感

同窓會員 淺野 哲夫

「來て見れば左程にもなし富士の山」其昔入學當時の期待と、現在の状態とを、比較するに、轉た、此感を禁ずるを得ない。學成り業遂げて、本校を辭するのではなく、實は在學四年と云ふ權利期間が、經過したので、後進諸君の壓迫を受けて、——少くとも、予自身に取りては——推し出されたのである、卒業と云ふよりも寧ろ卒年と云ふ方が、適當かも知れぬ。けれども亦、決して本校に受けたる教育の効果を毛頭、疑ふものではない、其有形無形に、修養した事は海山深い、だが、元度量權衡は比較的話である、比較によりては、ヒマラヤ山も高くない、太平洋も廣くない、今にして知る、學校教育は潜熱であり、礎石である事を。學校に於て仕上迄も、遂げんとするは、多きを望むのである、望む者の不覺である。Commencementなる語は、卒業を意味するが、誠に其通りである、卒業して始めて、活動の序幕が、落されるのである、是からが始である。

そうだったか

落 標 生

●そうだったか、わたいなーならなあでよし、京は水よし舞子美し。これ贅六の意氣を歌へるものなり、賣り渡せば最早そちらの物、損じやうが傷があらうがわたいの知つた所に非ず、どうなとして持つてつておこなはれ。京都の水が清くも、吉野山に櫻が咲かうが、三笠山からお月様が出て鹿が鳴かうが、舞子の松が箏を弾かうが、將又須磨の汀に鼓を打たうが、依然として彼等の心には何等の感化を與へない、強いて數ふれば青年のクセにベラ／＼と着て雪駄を履いて、そうだったか、わたいなーと來る位が關の山なり、大阪の町を見よ、そこにも、にも五六才の男の子にして髪を角刈とし白粉をつけ角帶をしめ蘆着の下駄を着したるを見ん、丁度大人を小さくした様なり、之れをアノ子翁さんと云ふ、夫關東人は角寒天の如く關西人は丸寒天の如し、龜井戸には單瓣の梅多く、五毛には八重の梅多きを占む、松島の景色は壯大にして嚴島は艶麗なり、而して名古屋以西は人力車の走るに當つて起る車軸

の軋る音はカラ／＼と嘲笑的にして輕躁なり、予の斯く云ふ決して關西人を輕薄なりと罵る者に非ず、關東人には關東人の特徴あり、而して贅六には贅六の長所あり、乃ち前者は義に厚くして後者は利に鋭し、義に厚きも度を過ぐるは可ならず、利に鋭なる必ずしも害をなさず、只其の度を過ぎて義を忘却し去らんを恐るのみ、而も前者の過ぎたるは大害をなさず、後者の度を失したるは他人に迷惑を掛くる事少からず、利を得るに他人を損ふの要なし、而も他を顧みざる利己的に傾き易きは、尙勇と暴とを混じ、柔と弱とを同一視し而して亦節儉の吝嗇に陥り易きが如し、要は只義を没却し去らざる程度に於て利を獲るに勉むべき也、此事贅六に於て最も其必要を認む、(四十三年二月二十七日)

評曰、そうだったか



● 學校日誌

三月二十七日 入學試驗開始
 三月二十八日 木村政一に卒業證書を授與す
 本二以下試験成績發表
 三月三十日 午前十時半入學試験終了引續き體格検査執行
 三月三十一日 英語講師フレッド、ケツトルウエルの囑託を解く
 四月一日 入學志願者體格検査終了
 四月六日 入學試験成績發表即ち第一部志願者四百七十七人に就き九十三人(後に内一人許可取消)入學を許可し第二部志願者貳百十五人に就き五十八人入學を許可す
 四月八日 大阪控訴院部長判事板垣不二男に法學通論及被産法の講師を囑託し京都帝國大學法科大學教授法學博士跡部定次郎に國際法の講師を囑託す
 四月十一日 吾孫子教授に東京市へ出張を命ず

四月十二日 教授大山爾也本官を免じ兵庫縣技師に專任せらる
 大山兵庫縣技師に商品學及商業實踐の講師を囑託す
 四月十六日 午前十時入學式舉行
 米國人マーガレット、イー、オー、シー、パロットに英語講師を囑託す
 瀧川末彦に雇を命ず(圖書課勤務)
 四月十八日 午前八時始業式舉行校長の訓示あり了て左記特待生に辭令を交付す
 本三 飯島幡司 大井傳治郎
 本二 吉村 蛟 納賀雅友
 山中慎三郎
 本一 團野郁治 松宮 茂
 中田友次郎
 津村教授に香川縣下へ出張を命ず
 水島校長高等教育會議議員被仰付
 四月二十二日 中川教授高等官四等に陞叙せらる
 四月二十三日 午後二時半講堂に於て澁澤男爵の學生に對する演説あり
 水島校長高等教育會議出席の爲め午後十時五十分の列車にて東上
 ○東教授近狀 三月中旬より下旬にかけて英國内地旅行目下歐洲大陸旅行中斯くて五月初め日英博覽會を見て五月七八日頃

佛國マルセイユより日本郵船會社汽船三島丸に乗船、六月中旬(豫定は十五日)神戸歸着の筈
 ○烏賀陽教授 三月二十五日佛國里昂に安着
 郵便は在里昂日本領事館氣付の事

明治四十三年三月 入學試験問題

英文和譯 第二部 (二時間)

1. After performing actions which an animal so small would seem, at first sight, incapable of performing, the little animal, to the astonishment of the spectators, suddenly ceased to move, and expired without showing any signs of pain.
2. When the water of a large pond is properly conducted by channels, it renders field around fertile; but when it bursts through its banks, it sweeps every thing before it, and destroys the produce of the fields.
3. A fort, which has fallen into the enemy's hands, must be recaptured at any price, and under circumstances of all but hopeless difficulty.
4. I had scarcely got round the hill when I perceived the giraffe surrounded by the dogs, and endeavouring to drive them away by heavy kicks. In a moment I was on my feet, and a shot from my gun brought her to the earth.

和文英譯 第一部 (二時間)

- 一、一日三語ツ、覺エレバ三今年ニシテ約三千語ヲ覺エル、三千語知ツテ居レバ、大抵ノ書物ヤ雜誌ハ讀メマス。
- 二、渡米實業團ハ、約百日ノ行程ヲ終ヘ恙ナク昨年十二月ニ歸朝シマシタ
- 三、當時名古屋市ニ開會中ノ共進會ハ、前年ノ大阪ノ博覽會ニモ劣ラヌ位、中々ノ好景氣デス。
- 四、サイベリヤ鐵道ノ發達シタ結果、敦賀ハ最近五年間ニ、非常ニ繁昌シテ來マシタ。

作文 第一部 (二時間)

題 遊學者ノ孝道

- (一) (題意) 父母ニ奉侍シテ孝養ヲ盡スコト能ハザル遊學者ニモ尙ホ盡スベキ孝道アルカ、若シ有リトセバ如何ナルモノタルベキカラ説キ、以テ首尾完結シタル一文章ヲ作ルベシ。
- (注意) 文章ハ必ず毛筆ニテ認メ、且ツ筆蹟ニ注意スベシ
- 歴 史 第一部 (二時間)
- (注意) 第一、二問ニ對スル答案ト第一、三、四問ニ對スル答案トハ各異レル答案用紙ニ認ムベシ。
- 一、大寶令ヲ説明シ我が史上ニ於テ其ノ

重要ナル所以ヲ述ベヨ。

- 一、安政ノ大獄ヲ説明セヨ、
- 二、普墮戰爭ノ原因及ビ結果ヲ記セ。
- 三、左記ノ事項ヲ略述セヨ。
- 四、「イ」「マ」「カ」「ロ」ノ專語。

化學 第一部 (二時間)

- (1) 水素ノ酸化物ニ就テ知レル所ヲ記セ
- (2) 硫黃ノ化學的性質ヲ説明スベシ。
- (3) 白色顔料トシテ使用サル、化合物中主要ナルモノ三種ヲ列擧シ其特徴ヲ示セ。
- (4) ハロゲン元素ノ性質ヲ示セ。

代 數 第一部 (二時間)

- (1) $(pa+qb+rc+sd)$ $(pa-qb-rs+sd)$
 $= (pa-qb+rc-sd)$ $(pa+qb-rs-sd)$
 ナルトキ下式ヲ證セヨ。
 $bc:ad=pr:qr$
- (2) 下ノ方程式ヲ解セヨ。
 $x-y=5=2,$
 $x^2+y^2-s^2=28,$
 $xy=6.$
- (3) 甲ト乙トガ $a:b$ ノ割合ニテ出資シテ組織セル組合アリ、今其組織ヲ變ジテ丙ヲ組合員トシテ之ニ加入セシメ、且ツ其資本金ヲ増減セズシテ甲乙丙三人

ノ出資額ヲ同額ニセシメ、丙ハ其出資トシテ、圓ヲ支拂フベシトイフ、然ラバ此ノ圓ヲ甲ト乙トニ何程ジ、分配スベキカ。

算 術 第一部 (二時間)

- (4) 大人6人及小兒6人が圓卓ノ周圍ニ座スルアリ、今大人ト大人ト若クバ小兒ト小兒トハ相接シテ座セザルモノトスレバ、其座リ方ニ幾種アルカ。
- (1) 甲乙丙3人周圍780間ノ三角形ノ各頂點ニ立チテ同時ニ出發シ、邊ニ沿テ同ジ向キニ走リタクルニ皆同時ニ次ノ頂點ニ達シタリ、然ルニ尙ホ走リテ一巡シ各其舊位置ニ達スルニハ出發時ヨリ夫々12分、14分、16分ヲ要シタリ、三角形ノ各邊ノ長サ如何。
- (2) 周圍1里ノ競走場アリ、甲乙兩人自轉車ニテ同時ニ同處ヨリ出發シ之ヲ繞グルニ、同ジ向キニ走レバ1時間ニテ一處トナリ、反對ノ向キニ走レバ4分ノ後チ相會ス、兩人ノ速サ1時間ニ何程ナルカ。
- (3) 或人5圓金貨ト10錢銀貨トヲ取リテ交ゼテ59圓ヲ所持セリ、而シテ其各貨幣ノ5分ノ1ヲ以テ買物ヲナシ其使ヒシ金貨ノ數ダケノ50錢銀貨ト10錢銀貨ノ

數ダケノ²錢銅貨ヲ約リ錢トシテ受取
リタルヲ以テ其所持金額48圓56錢トナ
レリ、始ノ各貨幣ノ數ヲ求メヨ。

(4) 満水シタルトキ井水ヲ汲ミ盡スニ唧
筒甲ヲ用フレバ4時間ヲ要シ、唧筒乙
ヲ用フレバ8時間ヲ要ス、又甲乙²個
ヲ同時ニ用フレバ1時40分間ヲ要スト
云フ、此井ガ汲ミ盡サレタル後チ満水
スルマデニ何時間ヲ要スベキカ。

但湧出量ハ毎時同一ナリトス。

練 練 練 (11世區)

一、資本ハ何程ニシテハハシムヘキトシ
二、外國ノ公債券發行額ニ對シテ
三、左記ノ用途ハ如何ナルカ。

ニ、 租田 用途 Value in Use.

ニ、 租 賃 Legal Tender.

ニ、 自由 貨 Free Goods.

商業簿記 第二部 (二時間)

第一問 商品仕入帳へ記入スベキ事項ヲ
明細ニ列擧スベシ而シテ或程度迄其記
入ヲ省略シ得ベキ方法如何。

第二問 試算表ニヨリ存在ヲ認證シ得ベ
キ誤謬ト否ラザルモノトヲ問フ。

第三問 單式組織ガ複式ノ理論ヲ基礎ト
セル組織ニ比シテ不完全ナル要點ヲ擧

ゾヨ

第四問 本日(甲)商店ニ於ケル次ノ諸取
引ノ仕譯ヲ問フ

1 (乙)商店へ(丙)商店委託品ヲ¥1,800
ニテ賣渡ス

以上代金トシテ(丁)商店振出約束手
形額面¥1,000ヲ¥3,500ノ割引ニテ裏
書讓受ケ殘額ハ某銀行宛小切手ニテ
受取ル。

2 豫テ英國某地(戊)商店へ註文シ置キ
タル某商品著荷ス。

此送狀面金額 ¥1,200ニ對シ振出サ
レタル一覽後三十日拂年六歩利付荷
爲替手形ヲ引受ク但シ豫約ノ爲替相
場 2/0¹ナリ。

3 (巳)商店ノ營業ヲ讓受ケ次ノ如ク其
資産負債ヲ引繼ギ總代金¥4,650ニ對
シテ三ヶ月後拂約束手形ヲ振出シ渡
ス。

資 産	200
什 器	5,600
商 品	1,800
賣上代金未收	3,500
負 債	
仕入代金未拂	3,500

銀行簿記 第二部 (二時間)

第一問 次ノ諸帳簿ヲ設クル目的如何。

1 増補日記帳。

2 割引手形元帳。

3 當坐預金元帳差引殘高記入帳。

第二問 繰越日記ノ記入方法及ビ此日記ヨ
リ總勘定元帳へ轉記スル方法ニ就キ其
要領ヲ説述スベシ。

第三問 某銀行本店ニ於ケル1乃至6ノ
各取引ニ關シテ下ノ甲乙二項ニ就キラ答
フベシ

甲 若シ當日仕譯ヲナスベキモノア
ラバ之ニ要スル傳票ノ名稱及ビ其
傳票上ノ仕譯法。

乙 若シ當日支店勘定元帳へ記入ス
ルコトヲ要スルモノアラバ其記入
方法。但シ同帳ニ於ケル各支店ノ
口坐ハ當方口本勘定、當方口假勘
定、先方口本勘定及ビ先方口假勘
定ノ四ツツ、ニ分タレタルモノト
假定ス。

1 (子)某ノ依頼ニヨリ山口支店宛送金
爲替ヲ取組ム取引番號第六號受取人
(丑)某金額 ¥ 300ニ對シテハ(寅)某
振出當店宛小切手第七號 ¥ 150及ビ
(子)某振出同第五十八號 ¥ 150ヲ受

取ル但シ送金無手数料。

2 (卯) 某ノ依頼ニヨリ長崎支店宛荷爲替ヲ取組ム取引番號第九號荷受人

(辰) 某貨物雜貨價額 ¥ 900 保險金額 ¥ 800 手形金額 ¥ 700 割引料 ¥ 20

手取金ノ内 ¥ 500 (巳) 某ノ當坐へ振込ニ殘額ハ現金ニテ拂渡ス。

以上手形取立ノタメ附屬書類一切ト共ニ同支店へ郵送ス。

3 (午) 某振出小樽支店宛同支店支拂保證小切手第十號 ¥ 350 (未) 某ノ當坐へ受入ル。

4 東京支店ヨリ昨日附ヲ以テ次ノ報告アリ。

山口支店取組電信送金爲替取引番號第十一號受取人(申) 某へ支拂濟

5 (酉) 某振出當店宛小切手第百二號 ¥ 750 ハ預金 ¥ 180 不足且ツ貸越ノ契約モ之ナキ處金額持參人(戌) 某へ現金ニテ拂渡シ此旨直チニ(西) 某へ通告シテ至急入金ヲナサシムルコト

、ス。

6 (亥) 某ノ依頼ニヨリ倫敦 A 銀行宛荷爲替信用狀第三號額面 ¥ 1,000 ヲ發行シ同擔保トシテ同人當坐ヨリ ¥ 6,000 ヲ振替へ預カル。

商業算術 第二部 (二時間)

1 某會社本期ノ利益金ハ、之ヲ前期ニ比スルバ 5% ヲ減少シ、之ヲ前々期ニ比スルバ 8% ヲ増加セリトイフ、

間フ、前期ノ利益金ハ之ヲ前々期ニ比スルバ幾% ノ増加ナリシカ。

(注意) 答數ニ於テ 1% 未滿ノ端數アラバ分數ニテ之ヲ示スベシ。

2 原價 ¥ 20,000 ノ商品ニ對シ、原價全額ト、運賃 ¥ 4,000 ト、原價ノ 10% ニ當ル希望利益ト、保險金額 ¥ 100 ニ付

海上保險ヲ附セントセバ、其保險額ヲ幾何ト定ムベキカ。

(注意) 保險金額ニ於テ 1% 未滿ノ端數アラバ 1 ニ之ヲ切上グベシ

3 倫敦銀塊相場ガ 26 1/4 ナルトキ、我國ニ於ケル上海宛參著爲替相場ハ 87 1/2 ナリ、今同銀塊相場ガ 26 1/2 騰貴シタルトキ、同爲替相場ハ何程ナルベキカ、但我國ニ於ケル清國宛爲替相場ハ倫敦銀塊ノ騰落ノミニ因リテ變ズルモノト假定ス。

(注意) 求ムル所ノ爲替相場ニ於テ 1/2 兩未滿ノ端數アラバ之ヲ 1 兩ニ四拾五人スベシ。

4 下記交互計算ノ計算書ヲ作成セヨ、但利率ハ年 6% ニシテ、決算日ハ明治四十三年三月三十一日ナリトス。

貸方

金額	摘要	月日
2,500	小切手	43 120
3,420	手形 1 個月拂	„ 31
1,310	手形 20 日拂	213

高田商店

借方

金額	摘要	月日
523 20	繰越	42 1231
3,520 70	商品 15 日掛	43 115
4,580	商品 1 個月掛	228
4260	雜費	331

(注意) 本問ノ計算法ハ受験者ノ隨意ナリトス

明治四十三年入學生氏名

第一部 九十二名 (學校別)

府縣名	公立	私立	出身校名	氏名	縣府
東京	府立	私立	第三中學	吉野英俊	東京府
東京	府立	私立	錦城中學	内田鶴松	東京府
東京	府立	私立	麻布中學	倉西三郎	東京府
東京	府立	私立	麻布中學	池田信愛	東京府
京都	府立	私立	京北中學	小林吟二	京都府
京都	府立	私立	第一中學	只木豐	京都府
京都	府立	私立	第二中學	大藪權一	京都府
京都	府立	私立	第一中學	木水榮太郎	京都府
京都	府立	私立	第二中學	山口五一	京都府
京都	府立	私立	第二中學	田邊清次郎	京都府
京都	府立	私立	第二中學	田邊清次郎	京都府
大阪	府立	私立	同志社普通學校	山田正太郎	京都府
大阪	府立	私立	北野中學	越ヶ谷壽藏	大阪府
大阪	府立	私立	北野中學	田中好三	大阪府
大阪	府立	私立	八尾中學	林茂	大阪府
大阪	府立	私立	八尾中學	乾新三	大阪府
大阪	府立	私立	天王寺中學	高橋清藏	大阪府
大阪	府立	私立	天王寺中學	本山勇太郎	大阪府
大阪	府立	私立	天王寺中學	吉田疑	大阪府
大阪	府立	私立	岸和田中學	高井清吉	大阪府
大阪	府立	私立	市岡中學	藤田保種	大阪府
大阪	府立	私立	堺中學	吉井無一	大阪府
大阪	府立	私立	三重	青山一郎	大阪府
大阪	府立	私立	四條畷中學	田伏修	大阪府
大阪	府立	私立	四條畷中學	見浪虎雄	大阪府
大阪	府立	私立	桃山中學	柳瀨省吾	大阪府
大阪	府立	私立	桃山中學	岩瀨權六	大阪府
大阪	府立	私立	第二中學	大岡寅一	大阪府
大阪	府立	私立	第二中學	瀨戶洋	大阪府
大阪	府立	私立	第二中學	神原孝治	大阪府
大阪	府立	私立	第二中學	神原孝治	大阪府
大阪	府立	私立	姬路中學	大田英爾	大阪府
大阪	府立	私立	姬路中學	小泉種秋	大阪府
大阪	府立	私立	第一神戶中學	山西彌太郎	大阪府
大阪	府立	私立	第一神戶中學	大塚金之助	大阪府
大阪	府立	私立	第一神戶中學	小室健夫	大阪府
大阪	府立	私立	第一神戶中學	湯川滿次郎	大阪府
大阪	府立	私立	第一神戶中學	松尾豐實	大阪府
大阪	府立	私立	第一神戶中學	大賀浩	大阪府
大阪	府立	私立	第一神戶中學	朝倉誠	大阪府
大阪	府立	私立	伊丹中學	繁治平治郎	大阪府
大阪	府立	私立	伊丹中學	繁治平治郎	大阪府
大阪	府立	私立	伊丹中學	榊林繁男	大阪府
大阪	府立	私立	小野中學	庄村孝一	大阪府
大阪	府立	私立	小野中學	庄村孝一	大阪府
大阪	府立	私立	長崎中學	渡邊彦三	大阪府
大阪	府立	私立	長崎中學	渡邊彦三	大阪府
大阪	府立	私立	中學玖島學館	土肥東一郎	大阪府
大阪	府立	私立	新瀨中學	本間重一郎	大阪府
大阪	府立	私立	第一中學	鹽野純吉	大阪府

同	同	同	兵	同	京	同	愛	同	香	神	同	鹿	同	岡	同	同	同	同	同	同	同	大	同	廣
同	同	同	庫	同	都	同	知	同	川	奈	同	兒	同	山	同	同	同	同	同	同	同	阪	同	島
同	同	同	縣	同	市	同	同	同	縣	町	同	市	町	縣	市	同	同	同	同	同	同	私	同	縣
同	同	同	立	同	立	同	同	同	立	立	同	立	立	立	立	同	同	同	同	同	同	立	立	立
神	神	神	神	京	京	名	名	香	香	橫	鹿	鹿	笠	岡	大	成	明	明	明	明	大	大	尾	尾
戶	戶	戶	戶	都	都	古	古	川	川	濱	兒	兒	岡	山	阪	器	星	星	星	星	阪	阪	道	道
商	商	商	商	商	商	屋	屋	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
二	戀	不	不	伊	高	志	千	土	葛	守	加	吉	安	鷓	木	多	吉	青	兒	北	福	三	小	
見	田	動	動	藤	木	貴	村	居	新	岡	納	井	原	木	子	喜	田	木	玉	谷	島	崎	川	
松	作	純	純	傳	新	才	敏	武	新	豐	新	常	太	健	文	直	秀	政	翠	與	與	龍	權	
三	三	一	一	三	三	知	彥	雄	吉	三	藏	助	郎	造	之	次	太	太	靜	一	三	藏	藏	
兵	兵	兵	兵	京	京	愛	愛	香	德	石	鹿	鹿	岡	佐	大	大	大	神	和	大	兵	兵	廣	
庫	庫	庫	庫	都	都	知	知	川	島	川	兒	兒	山	賀	阪	阪	阪	奈	歌	阪	庫	庫	島	

以	島	同	同	北	同	山	石	同	愛	富	高	三	同	熊	同	同	山	同	同	靜	同	同	兵
上	根	同	同	海	同	梨	川	同	媛	山	知	重	同	本	同	同	口	同	同	岡	同	同	庫
縣	縣	同	同	道	同	市	市	同	縣	市	同	同	同	縣	同	同	市	同	同	縣	同	同	縣
立	立	同	同	道	同	立	立	同	立	立	同	同	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立
島	函	函	函	甲	甲	金	松	松	高	高	四	熊	熊	下	下	下	靜	濱	濱	神	神	神	神
根	館	館	館	府	府	澤	山	山	岡	知	日	本	本	關	關	關	岡	松	松	戶	戶	戶	戶
商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	市	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	商	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
今	松	野	刀	田	內	高	谷	垣	作	楓	倉	粟	美	重	中	豐	望	小	林	小	三	灰	
井	本	坂	根	崎	藤	柳	口	生	道	生	田	津	作	兼	村	田	池	勝	松	宅	本	本	
隆	小	喜	文	進	隆	保	三	雅	宗	英	善	金	史	宗	三	月	半	太	素	音	音	音	
之	一	代	雄	一	之	之	樹	男	作	吉	三	六	郎	一	雄	一	三	郎	七	胤	次	次	
助	郎	志	進	行	助	助	郎	男	富	高	郎	郎	郎	山	山	大	三	郎	七	岡	岡	岡	
島	北	北	北	新	石	石	媛	媛	山	知	重	本	本	口	口	分	岡	岡	岡	岡	岡	庫	
根	海	海	海	瀨	川	川	媛	媛	山	知	重	本	本	口	口	分	岡	岡	岡	岡	岡	庫	

十三



學友會

庭球部史

一、第一次關西

平定時代

三十八年九月より三十九年四月迄——御影師範を破る——
京阪遠征——第一回東京遠征

我庭球部今日の隆盛を見るにつけ忘る可からざるは市田幸四郎其人である、今彼れ市田なる人の性格を思見るに市田は殆んど創立者に必要なる總ての性格を備へて居つた、彼の體格は身長五尺七寸重量十七貫と云ふ偉大なるものである、彼の頭腦は極めて組織的にして明確英敏である、身體強健にて頭腦明敏なるは確かに事を成すの人である、まかし彼は此上にして時としては冷酷に過ぎると思はるゝ程な強固な意志と鬼神も避く可き果斷とを有して居つた、されば彼の英姿の向ふ處百の困厄も尾を捲いて去り千の情實も釋然として解けた、加ふるに彼の進取的精神は彼をして一日も現在に満足せしめず改革に襲ぐに改革を以てし日夜庭球部の發

達に努力せしめた、かくして彼は我庭球部の創立者となつたのである、而して又實に關西に於ける前衛の鼻祖となつたのである。

何れの世にも創立者は多くの敵をつくる市田も亦この控を免れることは出来なかつた、彼れの豪膽なる性質と赤裸々な毒罵とは彼の輩下にすら敵を生せしめた、まかし彼がこの内外の敵に屈せず其信ずる處に邁進したる其勇氣には敵味方共感嘆したのであつた。

九月新學期の開かれると共に彼は多くの反對怨嗟の聲の中に新選手八組を定めた、彼れの果敢なる性格は遺憾なく發揮されて彼は何等の因襲情實に拘泥する事なく斷乎として舊士を捨て新進氣鋭の士を以て庭球部の中堅を形付くつた、今此所謂新進の士を擧ぐれば左の十五名を數へ得る。

後衛 戸田、鶴田、古賀、杉山、岡田、
吉田、岡、岩田熊、
前衛 市田、丹羽、森本、山田、清水、
金子、高松、

この新選手制度に對する非難攻撃は實に喧しきものであつた、一時は庭球部の前途をすら危ましめた、滿校主義と云ふ事

が喧しく稱へられたのもこの反動にすぎなかつた、まかし市田を始めかく云ふ筆者もこう信じた、運動は各自之を爲すべし選手は有害無用なり、と云ふは恰も、各人は皆音樂詩歌の情趣を解する故、音樂家詩人と云ふ如き専門家を要せずと云ふと同様である、詩人音樂家ありて、凡人の創見し得ぬ興趣を傳ふるにより、藝術の隆盛を期し得る如く、運動も、運動界に於ける凡人の創見し得ぬ興趣を選手により傳へらるゝに於て始めて其隆盛を期し得るものであると、今日吾人の信向の過なかりし事を事實に於て證明し得る吾人の聊か誇りとする處である、滿校諸君に庭球趣味を傳へ競技運動の興ふる利益を願はんことは我庭球部の理想である、扱新選手は猛烈なる練習の後萩咲き初むる十月上旬京阪地方遠征の途に上つたまづ大阪に於て高等工業を破り其日薄暮夕月を浴びて京都に入る、加茂の瀬音に夢破られて其夜は眠りがてに更け渡つた翌日曜は三十六峯霞が、れる小春日和まづ高等工藝に於て同校及醫學を破り午後大學コートに於て三高を破る、夕陽西に傾く頃、大學選手と混合紅白試合を終へて其夜目出度く凱歌を擧げて歸神した

此遠征に於て功勞著るしかりしは、大將戸田、市田及先鋒杉山、清水にして殊に後者に至りては五戰五勝、敵を倒すこと十一組、就中大阪高工との戰には大將敗れし後を享けて崩るゝ大厦を一木にて支へたのである。

始めて外に力を用いて始めて凱旋の歡樂に酔ふを得た、我等は伊太利を征して始めて勝利の盃を味ひし佛蘭西の英傑と其光榮を同じくした、併し我等は何時迄も勝利の歡樂に酔ふを許されなかつた、昔合の東二里御影の里には我等の窺覷に許さざる斯界の重鎮の嚴として控ゆるあり、我等は動かざる獅子の鬣を曳くにはあまりに小膽であつた。

然し乍ら何時迄かくてあるべきではなかつた、一夜布引通の一旗亭に祝勝の小宴を開いたとき、溢るゝ盃に滿を引いて青春の血潮は滿腔の虹となつて吐かれた席上一封の挑戦狀は匆筆されて御影に飛んだのである。

日は來た！雪辱の秋は來た、十一月十二日、其前日に大阪高醫を殲滅した我等は其勢も抜けて憂色を眉宇に隠し得ず、快々として御影に向ふた、まかし校友諸君の熱誠なる應援は洵に未曾有と思はれ

雪辱の秋、雪辱の秋！の四字は各自の口に頻りに唱へられた。

戰は凄しき聲援場裡に開かれた、まかし乍ら刃を交うるに思ひ我等の先の憂慮は忽ち痛快の感を以て消された、見よ、新銳の前衛術を會得せる我選手の如何に舊式の庭球術を擊破し行くを、戰は優退二組勝殘一組不戰組三組の我大勝を以て終り。

一千の觀者は十九世紀末の新舊文明の衝突、續いて起つた舊形式（オールドファッション）破懷の悲劇を今眼の前に見る心地がした、中にも敵將中野の殊勝なる奮闘は洵に見るに忍びぬ悲惨なものがあつた。

次號原稿ノ切

五月十五日

多年我等が仰望せし御影師範も戰へば何の事もなく、たま／＼我等に九月以來練習の新技術に自信の確印を捺さしめたに過ぎなかつた、この試金石により確念を得た我等は愈々技術の進歩に怠りなかつた、されば十一月下旬、大阪高商の我

堅壘に迫り來るありしもたゞ一組を傷けられしのみにて我大勝に歸した、筆者は

この試合が實に對大阪高商定期仕合の第一回なりしこと、筆者が、この仕合に始めて前衛として出戦し奇巧を奏せしこと、を述べて、すべて叙述の筆を省く。

端艇競漕

春二十四番の風吹いて櫻花は青葉と變つた、今日此頃六甲山にも春日野にも夏の景色が見え出した、世の中は既に夏である。敏馬の海にも夏が來た、蓋しこれボートのシーズンである、此の時に當つて五月二十二日をトシ端艇部は例年に彌ます競漕大會を開く、聞くさへ實に愉快極まる事である一百五十の進新氣銳の新入生を加へたに於ておや其の盛會は如何ばかりであらう、スタートの號砲、ランチの汽笛、耳に聞ゆる様である、吾人は端艇部の爲め當日の榮を祈るのである。



同窓會

會員諸君に告ぐ

本日本會定時總會に於て會則第十條の會

費金壹圓を貳圓に改め本年度即ち四月より實行の事に決議相成候條右御承知相成度此段及報告候也

四月三日 神戸高商同窓會

○常議員

今回改選の結果左の諸君常議員に就任せられたり

- 河本市郎
- 伊津野勳
- 名村豐太郎
- 石川英一
- 高畑誠一
- 川崎恂一
- 刀禰館正雄

○新入會百七名

去月業を卒へて母校を出でられたる百七名の新卒業生諸君は舉て本會に入會せられたり

○定期總會

本會定期總會は四月三日(日曜)午後二時を期し西宮香櫛園惠美須ホテルに於て開かれたり先づ常議員の改選を行ひ(其結果は別項に掲ぐるが如し)次で本會の發展企圖に伴ひ必然起るべき會費増額の議にかゝり即ち滿場一致現行の壹圓を貳圓に改め直ちに四月より實行の事に決定

了して總會を閉ち其れより豫て水島會長に於て希望し居られたる母校出身者に対する社會の感想談に移り各自の此れ迄耳にし得たる處を互に交換し大に得る處あり斯くて一同歡を盡して散會したるは既に日暮なりき當日は新入會員の歡迎會をも兼ねし事とて從來に例無き多數の出席を見たり即ち左の如し

- 水島會長 馬場三平 今川武一郎
- 津田十郎 坂本克磨 荒木武二郎
- 岸 信雄 北野祐信 奥村正三
- 高畑誠一 永井幸太郎 渡邊諏訪松
- 山内孫太郎 蜂谷昌藏 宮田治三郎
- 奥田吉郎 氏家幾太郎 深浦武雄
- 梅澤完之亮 吉田喜平 廣川彦治
- 金井哲太郎 下山豊平 日高圓助
- 山下雄太郎 伊津野勳 稻田康治郎
- 田中六三郎 間室壽人 諏訪春太郎
- 佐藤 要 栢 共造 嘉納 純
- 村松孝宜 宮原 清 前田 勇
- 北濱留松 玉手 弘 細田藤彌
- 刀禰館正雄 石丸貞太郎 山浦勝馬
- 水藤壽一 吉田 厚 越智獅二郎
- 岡田源三郎 藤枝善造 瀧谷治吉
- 谷崎昌一 福田米吉 黒田喜三郎
- 川崎恂一 中原一雄 片山篤也

大邊 弘 橋本戊子郎 上田 俊吾
名村豐太郎 中野喜一郎

○會員動靜(一東(四月二十七日記))

通常會員其姓名住所職業を變更したるときは直ちに本會に報告すべし(同窓會則第十四條)

○松阪啓太郎君 東京市日本橋區駿河町三井物産株式會社

○天羽英二君 專攻部、東京府大森海岸三十一阿部萬平方

○三宅哲一郎君 專攻部、和歌山縣那賀郡粉河町大字粉河一九〇八に歸省中

○刀禰館正雄君 神戸市西町神戸川崎銀行、同市加納町三丁目川崎邸内

○兒藤弘君 熊本市新町三丁目山内商店同市魚屋町二丁目二十四

○細田藤彌君 大阪市北區中ノ島五丁目三菱合資會社支店銀行部

○吉田厚君 專攻部

○福田米吉君 大阪市北區中ノ島二丁目高田商會支店、同市南堀江下通四丁目三五〇

○小原又作君 神戸市楠町五丁目百八十三ノ十二丸泉石夫方

○田代寅吉君 專攻部

○近藤得三君 廣島縣世羅郡西大田村字青水(韓國農工銀行に内定)

○渡邊信一君 專攻部、大阪市南區棉屋町渡邊テイ方に歸省中

○板垣茂末君 專攻部

○丸谷喜市君 專攻部

○北濱留松君 神戸市榮町三丁目鈴木商店

○大石勝夫君 香川縣綾歌郡坂出町中通町

○鷲野甚之助君 大阪市西區北福崎町一

○内海峯二君 横濱市山下町三井物産株式會社横濱船積取扱所

○橋本戊子郎君 神戸市奥平野村一五五ノ一八池田德藏方

○殿村恒藏君 專攻部

○谷川善次郎君 兵庫縣津名郡志筑町連塔

○武部治右衛門君 神戸市三宮町二丁目磯部熊太郎方

○竹田龍太郎君 專攻部、神戸市中山手通六丁目四十一番屋敷ノ三に歸省中

○十龜盛次君 神戸市榮町通一丁目住友銀行神戸支店、同市國香通六丁目十八香川方

○立入玄一郎君 京都市東洞院通以五條南入

○玉手弘君 自家營業、大阪市西區鞆中通一丁目一一九

○飯田彌五郎君 專攻部、東京府北豐島郡日暮里村大字金杉百九十八

○石田重喜知君 專攻部、東京市芝區伊

○谷崎昌一君 大阪府西成郡勝間村千九十五番地(南海鐵道玉出驛北二丁目)

○伊藤吉次郎君 專攻部、東京市本郷區臺町五十七清水方

○村上義溫君 專攻部、東京市小石川區表町三十六高舉館方

○今井卓雄君 京都府愛宕郡白川村

○井上千夫君 大阪市北區玉江町二丁目百四十一

○上田俊吾君 神戸市東尻池村鐘淵紡績

卒業生諸君に急告

拜啓初夏の候各位益々御清適奉賀候然者來る五月二十二日(日曜)日(雨天の時は二十九日)敏馬沖に於て本會第五回端艇競漕大會相催候間萬障御繰合御來觀被成下度此段御案内申上候
尙々御出漕希望の諸君は此際奮て御申込あらん事を祈上候
四月三十日

神戸高等商業學校學友會

○鹿島富太郎君 專攻部、東京市本郷區森川町一番地新坂高木金太郎氏別荘内

○岩本安之助君 專攻部、大津市白玉町一に歸省中

○藤原藤造君 大阪市東區今橋四丁目日本生命保險株式會社

○依藤正君 横濱市元濱町一丁目岩井商店、東京府大森字山王岩井商店雄心寮

株式會社兵庫支店、同市駒ヶ林濱田方

○松島鹿夫君 專攻部、東京市本郷區菊坂町八二常盤館方

○廣川彦治君 神戸市東尻池村鐘淵紡績株式會社兵庫支店

○福島嘉平君 佐賀市佐賀商業學校

○澁谷治吉君 神戸市三宮町三丁目大澤商會神戸支店

○萩原忠造君 大阪市東區本町三丁目藤本店

○内村直太郎君 名古屋市中區南大津町名古屋瓦斯株式會社

○大原巖一君 神戸市東尻池村鐘淵紡績株式會社兵庫支店

○野口鹿三君 三重縣一志郡中原村大字田村一九

○富士澤仙之助君 大阪市北區富島町大阪商船株式會社

○淺野哲夫君 專攻部、岐阜市泉町三二四に歸省中

○東納宗司君 大阪市東區北濱三丁目北濱銀行

○野田新吾君 三重縣安濃郡片田村大字久保(韓國農工銀行に内定)

○伊藤吉之助君 三重縣飯南郡松坂町西町二丁目九(韓國農工銀行に内定)

○石橋新藏君 專攻部、東京市本郷區弓町一丁目十九吾妻館事阿部イク方

○泉貞一君 專攻部、東京市本郷區森川町一番地新坂高木金太郎氏別荘内

○奥田憲郎君 專攻部

○伊藤長藏君 專攻部、兵庫縣印南郡伊保村ノ内今市村に歸省中
○赤松潤吉君 岡山縣淺口郡玉島町阿賀

崎

○藤安新之助君 專攻部、鹿兒島市住吉町二三六に歸省中

○江上龜雄君 山口縣玖珂郡南河内村大字角村三八八(韓國農工銀行に内定)

○吉田喜平君 大阪市東區高麗橋四丁目島商店

○立山榮藏君 神戸市榮町通三丁目湯淺商店

○森賢一郎君 名古屋市西區傳馬町名古屋銀行

○柴崎寛治郎君 兵庫縣加東郡上東條村ノ内森村(韓國農工銀行に内定)

○松本光三君 專攻部、神戸市兵庫南逆瀬川町一丁目三に歸省中

○市村一郎君 大阪市東區高麗橋四丁目三六安宅商店内北港製糖株式會社、但當分神戸市東川崎町一丁目みかどホテル内にて創立事務に従事、居宅同市中山手通七丁目十九ノ三

○松本潤治君 專攻部、巖手縣西磐井郡一ノ關町大町に歸省中

○藤野菊雄君 名古屋市西區傳馬町名古屋銀行

○中田直三郎君 專攻部、東京市本郷區森川町一番地新坂高木金太郎氏別荘内

○齋藤清治君 神戸市東川崎町二丁目川崎造船所倉庫課

○中村源藏君 專攻部

○森塚光次郎君 長崎縣北高來郡江ノ浦村二八

○河原次郎君 神戸市榮町通二丁目岩井商店神戸支店

○高田太吉君 自家營業、熊本市細工町一丁目十

○山浦勝馬君 大阪市北區中ノ島三丁目大阪瓦斯株式會社

○林八百吉君 專攻部、京都府伏見紺屋町八有川惠藏方滞在

○松居久吉君 富山市袋町十二銀行

○岡田源三郎君 大阪市北區中ノ島三丁目大阪瓦斯株式會社

○國武龍雄君 熊本市駕町十番地

○田代貞雄君 香川縣三豐郡高室村大字高屋二〇八

○正田泰造君 廣島縣世羅郡甲山町二二

○中村悦三君 靜岡縣濱名郡天神町村大字天神町四六
○泉隆一君 專攻部、福岡縣小倉市室町一丁目に歸省中

- 江波戸鐵太郎君 東京市日本橋區箱崎町四丁目一鹽田凌方
- 藤枝善造君 專攻部、奈良市今小路町に歸省中
- 森川傳治君 神戸市東川崎二丁目川崎造船所倉庫課
- 小澤茂君 神戸市兵庫水木通九丁目三
- 赤星周君 熊本縣上益城郡甲佐町豐内三九
- 野村小一郎君 京都市上京區烏丸通姉小路上の第一銀行京都支店
- 小川久太郎君 奈良縣吉野郡上市町轟
- 金井哲太郎君 大阪市東區淡路町二丁目浪速銀行
- 中村季雄君 大阪市北區中ノ島一丁目日本銀行大阪支店、同市北區北野佐藤町三塚崎卯之助方
- 越智獅二郎君 兵庫縣武庫郡西灘村ノ内岩屋島田文一郎方
- 辛島寛太君 專攻部、大分縣宇佐郡四日市町一四八に歸省中
- 宇多徹雄君 神戸市兵庫西仲町四七
- 伊藤有義君 鹿兒島市立鹿兒島商業學校
- 中山正三郎君 大分縣下毛郡中津町一二九四

- 宮城時平君 長野縣埴科郡五加村五八(韓國地方金融組合理理事に内定)
- 阿部嘉七君 熊本市小幡町五四
- 梅谷昇三君 專攻部
- 岩本省介君 島根縣松江市外中原一四
- 西村清兵衛君 福岡市天神町八十四大野仁平方
- 玉垣德藏君 橫濱市本町三丁目神榮株式會社橫濱支店(但四月中は郷里兵庫縣加古郡加古川町ノ内加古川町四三八ノ二)
- 阿賀忠一君 自家營業、香川縣綾歌郡坂出町一五二〇
- 福田米太郎君 三重縣宇治山田市河崎町二一八
- 尾谷敬一郎君 自家營業、岡山市中之町四二
- 中瀬辰治君 岡山縣御津町石井村大字巖井一六三四
- 池内寵君 愛知縣額田郡岡崎町大字康生二二三七
- 木村政一君 專攻部、和歌山縣那賀郡粉河町大字粉河に歸省中
- 中津速瀨君 東京市麴町區土手三番町一番地樋田方へ轉居
- 井上治一君 同じく樋田方へ轉居
- 鮫島宗一君 三月一日第一種勤務演習

- 終了目下鹿兒島縣始良郡加治木村反土三九三に歸省中
- 小倉英次郎君 神戸市播磨町紐育スタンダード石油會社神戸支店に就職、同市下山手通六丁目百六十四戒井辰五郎方寓
- 田中忠治君 京都市東洞院七條下る京都電氣鐵道株式會社に就職
- 山本馨介君 三月一日勤務演習を終へ大阪市高麗橋三丁目百三十銀行へ歸任
- 武藤松次君 清國上海英租界廣東路三菱合資會社上海支店に轉任を命せられ三月十六日着任
- 岩田熊治郎君 清國南滿洲鐵道長春驛へ轉任
- 増井貞吉君 長崎市常盤町三井物産株式會社長崎支店へ轉任
- 龜井英之助君 大阪市南區安堂寺橋通二丁目鈴木商店大阪出張所へ轉任
- 鈴木寛一君 橫濱市本町四丁目第百銀行橫濱支店へ轉任
- 永井幸太郎君 紐育スタンダード石油會社を辭し神戸市榮町通三丁目鈴木商店に就職
- 後藤幸三郎君 四月十二日より九十日間第一種勤務演習の爲め名古屋歩兵第六聯隊第一中隊へ入隊(豫備見習主計)

○澤重保君 同しく四月十二日より名古屋歩兵第三十三聯隊第十二中隊へ入隊 (同上)

○加藤孝一郎君 同しく四月十二日より

豊橋歩兵第六十聯隊第七中隊へ入隊 (同上)

○高原幸吉君 金澤歩兵第三十五聯隊第九中隊に轉屬

○井出鐵造君 三月三十一日着英

Messrs, Ide & Taniguchi,

28, Poplar Grove, Shepherd's Bush,

W, London.

○中富計太君 神戸市神明町湊西銀行に就職、同市兵庫佐比江町百九十一佐々木留次郎方寓

○荒木武二郎君 五月上旬より新設の堺瓦斯株式會社へ轉勤の命を受けられたる由

○東輝雄君 神戸市中山手通六丁目六十番地ノ八富田權六方寓 (韓國地方金融組合理事に内定)

○森鹿雄君 香川縣綾歌郡坂出町文明町久米和三郎方へ轉居

○蜂谷昌藏君 三月一日勤務演習を終へ目下大分縣下毛郡中津町枝町に歸省中

(韓國農工銀行に内定)

○河野宏君 鹿兒島商業學校を辭し神戸市脇の濱神戸電氣鐵道株式會社に就職

○佐山竹次郎君 門司市外大里町門司稅關假置場構内鈴木商店事務所に出張中

○會費受領報告 (自四十三年三月七日至同年四月二十五日)

一金參圓	同	石丸貞太郎君	四十三年度以降分
同	同	佐藤恒太郎君	同
同	同	高坂 洋吉君	同
同	同	島 雄三君	同
同	同	佐藤 要君	四十三年度以降分
同	同	小川善太郎君	同
一金貳圓五拾錢	同	田中 栞君	四十一年度以降分
同	同	上田 征二君	同
同	同	佐々木義彦君	四十一年度以降分
同	同	小出 梅吉君	同
同	同	篠田 富男君	同
同	同	馬場 三平君	同
同	同	河合 眞一君	四十一年度以降分
同	同	深浦 武雄君	同
同	同	館 保三郎君	四十三年度以降分
同	同	森 鹿雄君	同
同	同	越智彌二郎君	四十三年度以降分
一金壹圓五拾錢	同	岩田 承平君	四十一年度以降分
同	同	多次喜太治君	同
同	同	峰谷 昌藏君	四十一年度分
同	同	安田 重雄君	同
同	同	下部 卓江君	四十一年度分
同	同	森 延年君	四十一年度以降分
同	同	小倉大四郎君	四十三年度ノ内
同	同	小川久太郎君	同

同	同	中谷熊之助君	四十三年度分
同	同	松本 高君	同
同	同	吉田 厚君	同
同	同	高井 商二君	同
同	同	天羽 英二君	四十三年度分
同	同	板垣 茂末君	四十三年度ノ内
一金五拾錢	同	本年卒業に付本校消費組合出資額拂戻の際領收なかりしに依り便宜上本會費に振換納付せらるもの左の通り	同
一金貳圓	同	伊藤 長藏君	四十三年、四十四年度分
同	同	立入玄一郎君	四十三年度分
同	同	玉手 弘君	同
同	同	中田直三郎君	同
同	同	松本 光三君	四十三年、四十四年度分
同	同	木村 政一君	同
同	同	岡田源三郎君	四十三年度ノ内
同	同	谷川善次郎君	同
同	同	森川 傳治君	同
同	同	殿村 恒藏君	同
同	同	藤安新之助君	同
同	同	泉 隆一君	同
同	同	四代 眞雄君	同
同	同	江上 龜雄君	同



○長春便り

岩田熊治郎

暖問答—依然雪の世界—五ヶ年間櫻を見ず
驛員生活、卒業生中にては迂生が嚆矢に

候べし、制服を着て、寒い雪の中をぶらぶら致居候、相手は支那人に候も支那語は少しも解らず、咄問答で仕事を致す等は一寸内地で見られぬ面白い技に有之候。當地は滿鐵の最北端、東清鐵道南支線と接續致居従つて露國商人も多少は入り込み居、露語の必要も有之候、尤も語學は各自夫々専用家は有之候へ共、其人々の留守の時に支那人や露國人が舞込み候時は又々例の咄問答仲々要領を得ず、漸やく覺つて行つた仕事に間違あつて文句を聞く事も往々有之由、面白くもあり、厄介でもある土地に候、内地よりの雁信に依れば、既に梅の時期も過ぎ去つて、櫻其盛を競ふ頃、花見に人のうかれ歩く由に候へ共、當地は依然雪の世界、見渡す限り山なく木なく、空と陸と相接する處迄總て眞白に候、此雪の爲に時々列車不通となり、計劃通り行かざる事も有之候。遷生と同じ室に居候人は渡滿後五年、未だ櫻を見ずと嘆じ居る人も有之候が、何となく哀れに聞け候、内地に居る頃は櫻は何の感想をも呼ばず候へ共當地にては、櫻の一字何となく戀しく候。



九州支部大會記事

博多よいとこ松原つゞき

帆影ほの／＼鵜來島がくれ

玄海の大洋を亘つて松吹く春の清風が、若草萌ゆる筑紫の山野を掩ひ包んだ。桃は開いた、櫻は咲いた、花の共進會を見にお出で。何處ともなしに春の耳語が聞ゆる、「オイ君、共進會見物を兼ねて博多で大會をやらうじやないか」異口同音、無邪氣な我が同窓の口頭には期せずして上つた、而し何と云つても北は石炭の門司より、西は吳越の長崎まで、南はお薩で名高い鹿兒島下りと云ふ、頗る龍大の地域だから、なか／＼以て阪神や、京濱所の騒じやない、其の所を古井、安松、上野の三君が可然宜しく奔走せられたので下地の上の御意、成程御尤と愈々「やらう」やりましょう」と云ふ事に決した、月は四月、日は二日、所は花の博多は名も床しき東仲洲の福村屋の庭に。

二

茅海の春色、耶山の秋景、花を布引に賞して船を敏馬に遊ぶ、校舎の樂しかつた生活の難有さは一度巢立つて見て、さて成程と思つた、況んや三界筑紫の果に居つてはより一層の感が深い、快心の友、水魚の同窓に會へると云ふ、春の草木のやうな一種言語に表明する事の出来ない快感が數日前から湧き立つた、天氣は上々吉、風はお詔の和ぎ、午後の五時に大里の停車場に急ぐと、三菱の好球兒矢野君と、上野の福公が笑つて迎つて呉れる夕日に暮れかゝる六連の翠嶼を望見しつゝ、車中の興なか／＼に盡さない、多々羅の風趣車窓に映じ、やがては博多の灣水繪の如く双眸に集まる、千代かけし千代の松原、床しくも通り過つて博多の驛に着いて、さて驚いた、只もう花又花、「僕アもー泌み／＼氣に入つた、博多はよいな」そんじよそこらの人が頻りに感心して居る「オイ君、君聲の主は誰あらうと振り向く出合頭にヤーと浴せかけたは泉商學士殿横合から入候ヤーと推參仕りましたは安松の長公」君博多はよいじやないか」又候感心して居る、然れども奈何せむ地理方角一向に存する人がない、止

むなく人車を驅る事五輛、輪轍の音勇ましく、花の博多のイルミテーションの墜道を通つて、愈々會場にと乗り込んだ。

三

古いだの、新しいだのと、門に入るが早いか洒落たらしく、花の長廊を上つて定の席に着く、懐しそうな嬉しそうな一打の微笑が風に揺れて室の内外を包む世は太平、春は希望に充ちて人は平和である、一打の微笑の主は左の諸君子であつた。

古井君、矢野君、永津君、安松君、上野君、高津君、泉君、高田君、渡邊君、福島君、佐山君、驚いた、微笑の先生は大半口頭に美髯を捻つて御座る、下關の先生閣下のは最も美しい、是が語學大會では「你來了」などと寢言のやうな中華の言玉とやらを操つた人ださうして思へよう、尤も振つたのは佐賀の大先生、一名筑紫のデモンセニス、先づ、髯小學校第一年生と云ふ格。

古井さんが「諸君飲ふじやないか」と新しい淡白りの挨拶は甚だ以て興深い、永津の孝さんが早速だがと、眞面目に大きな箱を持出したので、テツキリ福引だ、そ

れにしてはチト早いなど、尙も見て居ると白い奉書の切が三條出た、ハテ不思議と尙も見て居ると旨そうな「ポロ」がポロ／＼と出た、さては手品だ哩と、舌を鳴らして居ると、孝さん賢まつて申さく「之は佐賀の住人大島は恒一郎主の心づくし、召し上らんせ皆の衆」と鹿爪眞顔である、奉書には次の二句が飛び出した

色は黒いが顔だちや圓い

色氣ない方添はせたい。

角張つた箱に入れ共丸ポロ

俺れが代りに齒がた見させむ。

ヤンヤの喝采は室の内外に充ちた、銀行家は粹なお方がたはチと云ふかで見れば下戸は早や大半平げて居る、平井の健ちやんから祝電が来る、薩摩の諸豪からも盛會を祝して来る、益盛んだ、談笑論議盛に起ればデモンセニスの大氣焰もある野球の話が其の筋の人に持て囃さるればテニスの連中又此方で引を取らずに威張る、酒が出る、杯盤が轉がる、優しい涼しい博多の異性が坐を取り持つて、名物の博多節とやらを玉音水を轉がす如くに連發する、「博多はよいな」不相變太平樂を云ふかと思れば、博多の女は命と斷定して居る、よく／＼聞けば顎の邊りで急

轉角度をなして抱合して居るからだそうな、さるにても命とは商賣柄は奇抜な名をつける。

長君の尺八翳々の餘音を弄し、好球大家のテンテコ舞はボールのフライを受けるがやうな姿勢だと拍手堂を破らんばかり佐賀の大先生一流の踊は腹を抱へて遂に云ふ所能はざらしめた、總出の舞踊には福緑壽の都人やら、下關の大先生迄加はつて大々陽氣の極に達した、熊本の醸造家は酒門に甲を脱いだは天の悪戯も一寸でた

兎にも角にも朝臣生れて、こんな無邪氣な愉快に集つた會心の會合はなかつた、十二分にも十三分にも快を盡して、一先づ袖を別つた時にはお月さんではない白熱燈がほの白う松の蔭からのぞいて見る。

四

明けては四月の三日、神武の大祭の御事とて朝來一點の浮雲すらない、「昨夜は面白かつたな」僕あ實に愉快だつた」と五つの頭が揃ふて旭日の出ない内に起きる佐賀の大先生は昨夜一夜を停車場で假寝したと早々の大氣焰で入つて来る、教育家は違つたものだ、庭球界の麒麟兒とや

ら石藏の坊チャンがやつて来る、行かうと云ふので愈々共進會に乗り込んだ、白い砂の上に花のやうな建物、繪のやうな構内は全く、六つの新下り赤毛布連には嬉しかつた、氣に入つた、其より他の言葉がない、西公園に出る、まばらの櫻が微笑んで迎へる、松の間を縫ひ花の下をくゞつて頂上に着く、「天下の絶景だ」と旅行家の朝臣が又氣に入つて、名島鶴來島玄海島、遠くは残の島手に取る如く博多の灣水夢の如く足下に蹲つて、三四の白帆をも坐して眠つたやう、快哉を呼ぶ者豈啻に吾輩のみならんやだ、水雷のシヤチホコ立チユのを見て下る、新進のダービーの二先生はさも樂しげに肩を怒らして先に立つと、後なる福公、朝臣の一行が頻りに眞似して嬉しがつてる、無邪氣な者だ、櫻餅に午食を濟まし、美しい「よいやな」の博多踊を一寸拜見し、天下の松原、千代の白砂に青松を賞て、再び花の博多のイルミチーシヨンに送られて驛につく「君氣に入つたぞ」「愉快だつたな」ダービーやら、中帽やら、髻殿仕譯の若武者連は帽子振り／＼氣笛一聲、右に左にさらば／＼。

(筑紫の朝臣)

◎編纂餘言

○雪見だ探梅だと願いで居る間に二十四番の春風が吹いて世の中は櫻の紅霞となつて嵐山が何の吉野が何のと云つたのも昨日の歡樂の夢、早や櫻葉の蔭に毛蟲のかくれる初夏の候ともなつた、いや早いものでおじやるわい。

○毎年繰り返す同じ歴史ではあるが卒業生を送るのは悲しい、出て行く諸君も嬉しいやうな悲しい様な七味唐がらし的の變手古な感じであらう、卒業生諸君を送りて悲しい涙の乾き果てぬのに新入生百四十餘名を迎へて喜んで、悲喜交々到るとは此の事ぢや、新入生と云へは歓迎會はいやはや例年にならぬ振つたものであつた、津村教授の運動部選手獎勵の演説吾人同感である、庭球部選手諸君正にク／＼坊子になるべしである、餘興の浪花節に至つては興風部の事業としては例年のレコードを破つたものである、恐らく校内に於て三弦の音のしたのは初めてであらう、地中海上の石橋教授の耳へ聞ねばよかつたが。

○誰かの口調を借りると當今は摩耶六甲の峯新緑將に滴らんとする時候である海

にも夏が來た五月晴れの好時節にポートルースをやる實に愉快である、吾人は愉快であるが甚だ迷惑を感じるのは敏馬海中の魚屬共であらう、先頃小野濱沖の火藥爆發で一杯喰はされて未だ抜けた腰の立たないのにポートルースの號砲で又腰は抜ける、オールで頭のあたりを思ひ切り掻き廻される、實にお氣の毒な次第である、魚曰く今年はおいらの厄年だ。

○中川教授の發起で五月一日に催さる、鵬越への遠足は賛成である、春秋數回かくの如き一日旅行を今後も大にやつて欲しい、春草萌ゆるあたり古き跡を尋ね秋風悲しい夕べ古戰場に歴史を談る等實に史的詩的趣味に富んで居る。

○他日改めて誌上で意見を述べるつもりではあるが、誤字誤文の多いにはあきれて了ふ、試みに控場の各部廣告を見給へ毎頁必ず二三の誤字がある、些細な事ではあるが注意する價値は充分にある。

明治四十三年四月三十日印刷(非賣)
明治四十三年四月三十日發行(品)

兵庫縣武庫郡西灘村ノ内藤村三番屋敷
編纂者 窪田安次郎
兵庫縣神戸市三宮町一丁目三百廿番邸
印刷人 辻 岩 雄
發行所 神戸高等商業學校學友會